

「生命（いのち）の安全教育」実践事例

活動名	個人情報が入っている写真や動画が流出する怖さを知ろう		
学校名	相模原支援学校		
学年	知的障害教育部門高等部 3 年	人数	10 人
日時	令和 5 年 7 月 13 日（木） 10：40 ～ 11：30		
取扱いの分類	保健体育（2 段階）「I 保健」		
講師	担任		
学習のねらい	<p>ア 健康で安全な生活を営むための知識・技能を身に付ける。（知識及び技能）</p> <p>イ SNS 利用に関わる自他の課題を仲間と考え他者に伝える。（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>ウ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）</p>		
内容	<p>（導入）</p> <p>○スゴロク・コミュニケーション（言われて嬉しいこと、嫌なこと、SNS の楽しいところ等） 3～4 人で出た目のお題について相手に伝え共感し合う。</p> <p>（展開）</p> <p>○SNS 利用のルールについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の投稿（個人情報にはどのようなものがあるか、身体データも個人情報） ・情報の送り手と受け手としてのマナーや責任（被害や加害になる可能性） ・「いじめ」は犯罪（肖像権の侵害とは） <p>（まとめ）</p> <p>○相手の気持ちに立って、自身の課題を仲間に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「恥ずかしい画像を拡散された側の立場だったら」など相手の気持ちをグループで話し合う。 		
成果 （児童・生徒、教職員の感想等）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 A は「他人の恥ずかしい写真や動画は撮らない、送らない」と仲間に伝え、「写真や動画の流出は相手の将来に影響があるし、人間関係が悪くなるから」と理由を説明した。 ・生徒 B は「被害者は許さないと思う」と相手の気持ちに立ち、「周囲が冷やかしているからと言って、自分の言動に気を付ける」と、自身の行動に注意を向けていた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健」で扱う内容と「情報」で扱う内容を整理する必要がある。 ・警察 OB などをゲストティーチャーに招き座学を行うが、生徒自身の身のまわりに起きていることを題材にして、仲間と課題を発見し解決策を考える必要がある 		
学校全体での取組や工夫 （予定も可）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度から「情報」の目標や内容を整理して、時間割の中に組み込み扱うこととした。 ・「情報」の中で、必要な法規や制度、マナー、生じる責任などの学習を行う検討をしている。 ・SNS トラブルには、教育相談 Co.や専門職を含め全校体制で対応することとした。 		

